

# 大好きな神戸に 安倍“自民党政治”の持ち込みゆるさない

## 野党の共同で神戸を市民の手に取りもどそう！

久元市長は、前回市長選で、自民党の大々的な応援を受けました。選挙中、数十人の自民党幹部が応援演説に立ち、自らも官僚出身として「安倍政権とのつよいパイプ」を強調しました。

その結果、自治体を「開発会社」に変える“自民党政治”の持ち込みが加速し、福祉や憲法など市政運営の大切な部分が歪められました。

自民党市議の不倫報道や、3市議の起訴など、自民党政治は神戸市でも末期症状を呈しています。こうした腐敗した自民党議員団に支えられながら、安倍流の“自民党市政”を押し進めているのが久元市長です。

いま安倍内閣の暴走政治に、地方から反撃が始まっています。森友・加計問題など安倍政権に厳しい批判がむけられる中、沖縄・新潟・東京につづき、7月、市民と共産・民進等が推す、野党共同候補が仙台市長選で当選しました。

国政でも神戸市でも、古い自民党政治をおわらせる一致点で、市民と野党の共同が大切です。

神戸市長選は、神戸市政に安倍“自民党政治”のこれ以上の持ち込みを許さず、市民の手に「神戸市」を取り戻し、住民の願いを実現するチャンスです。

### 久元市長の“自民党政治”持ち込みで 歪む神戸

#### ①大型開発を復活

##### 神戸空港を超える巨大人工島

安倍首相に「外国人にとって住みよい街になるよう取り組んでください」と言われ、久元市長は、三宮再開発や湾岸道路など、アベノミクスに連動する大型開発を次々打ち出しました。

最後には、前の矢田市長時代に「凍結」していた、六甲アイランド南の新人工島計画の復活を宣言しました(写真)。

アベ政治  
自民党に 忖度



#### ②住民福祉の後退

##### 「子ども医療費無料」を撤回

「住民の福祉の増進をはかる＝神戸市本来の仕事」の投げ捨ては、一層ひどくなりました。安倍内閣の骨太方針2015をうけ、市長は「子ども医療費無料」の選挙公約を撤回。

他の政令指定都市の市長に対し、有料化まで勧めています。

アベ政治  
自民党に 忖度

2013年 市長「医療費ゼロ」を公約

「近隣水準に劣るのは見過ごせない」



2015年 安倍内閣「骨太方針2015」

「過度な給付拡大競争を抑制していく」



2017年 市長最後の予算編成

「一部負担の存続が望ましい」

#### ③憲法擁護を放棄

##### 「憲法集会」への後援を拒否

安倍内閣の民主主義破壊、憲法改悪の策動に市長は迎合。

神戸市がこれまでおこなってきた憲法集会の後援を(「憲法擁護の集会は)中立性をそこなう」として拒否しました。

アベ政治  
自民党に 忖度

